

特集 1

歯学部卒業おめでとう



Bon Voyage !

新潟大学歯学部長 井上 誠

歯学科第56期生、口腔生命福祉学科第19期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この度めでたくご卒業される皆さんへ、全教職員を代表して心からお祝い申し上げます。また保護者をはじめご家族の皆様方におかれましても、卒業の日を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

新潟大学歯学部では現在までに3,000名を超える卒業生を輩出し、歯科医療、介護・福祉、歯科医学の教育、研究、社会貢献という見地から全国に誇る「知の拠点」としての役割を果たし続けて2025年には創立60周年を迎えました。11月1日には記念事業を実施して学内外から多くのお祝いメッセージをいただくとともに、日本歯科医師会長、新潟県歯科医師会長、新潟大学長、新潟大学歯学部同窓会長などから、これからの歯科医療や福祉分野が抱える課題に新潟大学歯学部がどう応えるかを考える機会をいただきました。今年度ご卒業される皆さんが、歯科や福祉分野を含む2026年以降の社会課題をどのように克服していくか、共に考える一員となる日を迎えられたことを本当にうれしく思います。

今後の歯科界において避けては通れない課題のひとつはデジタルテクノロジーのさらなる普及・拡大です。近年のCBCT、CAD/CAMシステム、口腔内スキャナの導入や保険収載など、今や当たり前になっている歯科医療技術に加えて、今後はAIの歯科医療への活用、遠隔医療の導入などが期待されています。ことにAIの導入は、すでに医科では診断、治療計画、患者管理の分野で顕著な発

展を遂げています。AIが早期の画像診断を支援し、初期う蝕や歯周疾患などを発見することが可能になれば、これまでの歯科医療のあり方は革命的に変わる可能性があります。また遠隔医療に関して、新潟大学では地域医療DX共創IPというプロジェクトが立ち上げられて、高齢化、人口減少、医師不足・偏在、医療アクセス不均衡などの地域医療課題の解決に取り組むべく、県内の公立病院と医療連携会議を組織して統合的戦略を検討しています。その中核をなすのがオンラインを活用した外来機能強化や地域医療関係者間のコミュニケーションツール導入です。歯学部でも一昨年から地域医療DX共創IPに参加して、地域歯科医療をオンラインで支える仕組み作りを模索しています。IT技術をどのように実装化できるか、地域医療をどのように支えていくかを考える上では、皆さんへの期待がとても高いことをぜひ覚えておいてください。

COVID-19パンデミックを経て、社会は長年にわたる慣行・慣習が崩されるとともに、デジタル化・リモート化へのシフト、人員削減や効率化といった流れが急速に進んでおり、時には何を頼りに人生設計を立てていくべきか悩むこともあるかも知れません。しかし私たち教職員は、皆さんには新しいフェーズを迎えた社会で活躍するために必要な知識、技能、態度が十分に培われたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという高い誇りを胸に、大いに活躍してください。

Bon voyage !



卒業を祝して

医歯学総合病院副院長（歯科総括） 多部田 康 一

歯学科56期生・口腔生命福祉学科19期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。努力の末、新潟大学歯学部教育課程を修了し、学士の学位を取得された皆さんとそれを支えてこられたご家族、ご親族の皆様にご心からお祝いを申し上げます。

皆さんは歯学部への入学前後に、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという特異な時代を経験した世代です。感染症による日常生活の変化や価値観の多様化、そこに生じる精神的なストレスも経験しました。この厳しい環境下で学び成長した皆さんは、これから歯科医療や社会福祉の分野で活躍するために必要な、社会的視野を備えた世代といえるでしょう。これまで皆さんは、歯学部において歯科医学、口腔保健医療・福祉学の重要な知識と基本技能を習得し、不変の土台を築くための学びを重ねてきました。これからは現場での経験を通じて、成熟したプロフェッショナルへと成長してゆく必要があります。是非ともその挑戦の過程を楽しみ、自己の研鑽を継続してください。

今後10年、20年後の社会は確実に変化します。少子高齢化の進行、疾病構造と医療ニーズの変化、さらにはグローバル化や多文化対応の必要性を含めて歯科医療の需要の形態は変わるとい

う。加えて、社会情勢の不確実性や物価・雇用環境の変動により、医療・福祉を取り巻く前提が揺れ動く局面も増えています。医療・福祉は、限られた資源の中で質と安全を守りつつ、効率性も求められる時代に入りました。DXやAIは効率化の手段になり得ますが、それだけで課題が解決するわけではありません。最終的に価値を生むのは、人の痛みや不安に向き合い、信頼を積み重ねる専門職業人の力です。変化を味方につけつつ、本質を外さない姿勢を貫き、柔軟性と適応力をもって活躍してください。同時に、社会のため、患者さんのために働く奉仕の精神が大切であり、医療職に携わる皆さんの誇りを高め、仕事のやりがいを生み、皆さんの人生をより豊かにするものと信じます。

本学歯学部の卒業生の皆さんには、各々の分野で専門職業人としての尽力によって社会を支えるとともに、臨床・現場での実践、あるいは研究を通して、医療技術や医療・社会福祉システムの発展や新たな創造も目指してください。若さと積極性を活かし、既成概念に囚われぬ挑戦により、自己実現とともに社会に貢献されることを願います。新潟大学歯学部・医歯学総合病院の教職員一同、皆さんの活躍を心より応援しています。

卒業生のことば

卒業生の言葉 — 全ての出会いに感謝して

歯学科6年 永澤芽衣

時が過ぎるのはとても早いもので、入学してから6年が経とうとしています。卒業という節目の時に大学6年間で振り返る機会を頂きましたこと、非常に嬉しく思っております。この機会に6年間で得た、たくさんの経験、出会いを記そうと思います。

大学に入学してからというもの、56期の同期をはじめ、先生方、患者さん、学部の先輩後輩、部活動、アルバイトの仲間など、踏み出す先にはいつでも出会いがありました。そんな数えきれないほどの出会いの中でも、今回は部活動と歯学部でのことについて書かせていただきます。

私の所属する陸上競技部は1年生当時の部員が5名ほど。それが今では、未だ少ないほうですが、16人となりたくさんの後輩ができました。56期は陸上部が私一人だけなので少し寂しさがありましたが、部活に行けば「芽衣さん〜！」と駆け寄ってきてくれて、皆いつでもあたたかく迎え入れてくれました。大学生活6年間の居場所を作ってくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。そして、何かに全力になり、仲間と共に一番

を目指すことの楽しさを知りました。走っている時に聞こえた応援の響きはいつまでも忘れません。

歯学部での出会いの多くは、やはり臨床実習でのことです。歯科医師の卵として患者さんと一対一でユニットに立ち診療することは、私にとって非常に高いハードルでした。そんな中でも、いつもそばには夜遅くまで対応してくださる各診療科の先生方、未熟な私にどこまでも優しい患者さん、いつでも助けてくれる引き継ぎの先輩方、技工室に帰れば笑わせてくれる同期、どんな時も応援してくれる家族がいました。多くの方々の支えがあって、この1年間を乗り越えられただけでなく、大きな成長ができたこと臨床実習が終了した今、実感しています。

この6年間、勉強だけでなく、学生にしかできないことを数え切れないほど経験させていただきました。今でも、技工室、外来ユニット、講義室、学校からの帰り道、競技場、バイト先、旅行先での溢れんばかりの景色が蘇ります。できるのであれば、もう少しだけでも皆とくだらないことで笑いながら過ごしていたいです。しかし、何事にも「ずっと」はありません。だからこそ、この6年間に大きな価値があると思っています。この出会いと経験を糧にこれからも前に進み続けます。6年間本当にありがとうございました。



6年間を振り返って

歯学科6年 米山 明由莉

この度、歯学部ニュースの卒業生のことばを執筆させていただくことになりました歯学科6年米山明由莉です。私は歯学部ニュースの執筆依頼は来ずに大学を卒業することになるだろうと思っていましたので、このような機会をいただけて大変嬉しく思います。

思い返せば6年前の今は、新型コロナウイルスの流行真っ只中であり自分が思い描いていた大学生活とはとてもかけ離れた生活を送っていました。徐々に規制が緩和されていくと同時に、歯学部ならではの専門的な授業や実習が増えていき、面白いな、大変だな、自分は意外とセンスがないのかな、などと思いながら進級していきました。

基礎実習・ポリクリを経て5年後期から始まった臨床実習では、今後の歯科医師としての人生の中で大きな糧となる経験を沢山させていただきました。特に、初診の患者さんにおいては治療計画を立てて実際に治療をしていくという一連の流れを自分で行う貴重な経験ができました。治療をし

ていく中で思い通りに進まないことも多々あり、臨床の難しさにも直面しました。毎回、診療前のプレチェックや診療後のフィードバック、技工物のチェックなど遅い時間まで対応して指導して下さった先生方には感謝しきれません。先生方からは診療でのテクニックや臨機応変な対応をはじめ、患者さんへの配慮や向き合い方など医療従事者としての姿勢を学ぶことができました。また、臨床実習にご協力いただいた患者さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。長年臨床実習に協力していただいている患者さんから「手際が良くなったね」「あなたは水を吸うタイミングが上手ね」などお褒めの言葉をいただいた時、自分の小さな成長を感じることができてとても嬉しく思いました。

最後になりますが、6年間、所縁のない新潟でこれまで頑張ってきたのは多くの方々のおかげからです。少人数で協力し合った個性豊かな同期達、ご指導していただいた先生方、遠方から応援してくれた家族、携わっていただいたすべての方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。新潟大学での学びを忘れずにこれからも精進していきます。



6年間を振り返って

歯学科6年 小田切 美 築

この度卒業生のことばを執筆する機会を賜りました、歯学科6年の小田切美築と申します。原稿を書かせていただきながら、入学してもう6年も経ったのかと感慨深い気持ちになると同時に、大学生活に終わりが近づいていることへの寂しさを感じています。新潟大学入学から今日までの日々を振り返り、卒業生のことばとさせていただきます。

私たち56期生は、新型コロナウイルスが世界的に流行り始めた時期の入学となりました。新生活への期待よりも不安や戸惑いの方が大きかったと記憶しています。1年次はオンライン授業のみで同期との交流も少なく、今後の大学生活がどうなっていくのか不安に思ったのを覚えています。2年次になり、キャンパスを移り対面での授業も始まったことで、ようやく大学生活が本格的に始まったことを実感しました。その後順次始まった実習で、思うような結果が出せずくじけそうになりながらも、友人と励まし合いながら取り組んだことは、今となっては良い思い出です。

様々なことを経験した6年間でしたが、最も印

象に残っているのは5年生の秋から始まった臨床実習です。臨床実習ではこれまでの大学生活の集大成として、大きな学びを得ることができました。1年間の臨床実習を終えた今でも、患者さんの治療をするとなると緊張し身が引き締まる思いがしますが、臨床実習が始まった頃は特に怖く感じていました。先輩方からの引継ぎが終わり1人での診療が始まると不安でいっぱいでしたが、事前学習や先生方とのディスカッションなどできる限りの準備をして診療に臨みました。診療に時間がかかり患者さんや先生方にご迷惑をおかけしたり、レポートや製作物の締め切りが重なりくじけそうになったこともありましたが、患者さんから「治療してもらってよく噛めるようになった」と言ってくれたことが励みとなりました。嬉しいことや辛いことなど様々な経験がありましたが、日々が学びの連続であり、臨床実習を通じて成長できたと感じています。大変な時に支えてくださった先生方や同期のおかげで臨床実習を終えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、これまでご指導してくださった先生方、大学関係者の方々に深く感謝申し上げます。6年間の大学生活で学んだことを心に留めて、より一層精進してまいります。



4年間を振り返って

口腔生命福祉学科4年 山本花恋

この度、「卒業生のことば」を執筆させていただくこととなりました。口腔生命福祉学科4年山本花恋です。振り返れば、この4年間は歯科衛生士として、そして一人の人間として大きく成長させてくれた、かけがえのない時間でした。

入学当初の私は、歯科衛生士という職業について、十分に理解していたとは言えませんでした。ただ国家資格を取得し、安定した職に就きたいという思いを抱いていました。しかし、学年が上がり、講義や実習を重ねる中で、歯科衛生士が人の健康と生活を支える、責任とやりがいのある専門職であることを実感するようになりました。特に臨床実習では、患者さん一人ひとりに寄り添うことの大切さや、知識と技術だけでなく、思いやりの心が求められる仕事であることを学びました。また、3年次の福祉実習を通して、医療と福祉が密接につながっていることを知りました。歯科医療もまた、生活や社会と深く関わる分野であり、歯科衛生士としてできることはまだ多くあると感じました。この学びは、これからの私の進む道を考える上で、大きな指針となっています。4年生

として過ごした一年間は、臨床実習、国家試験対策、就職活動と、多くの課題に向き合う日々でした。自分の未熟さに悩み、立ち止まりそうになることもありましたが、共に学び、励まし合った仲間が存在が、前に進む力となりました。何気ない会話や共に過ごした時間のすべてが、今ではかけがえのない思い出です。大学生活では、歯学部サッカー部のマネージャーとしての活動にも力を注ぎました。2年次には、福岡県で開催されたオールデンタルにて4位という結果を残すことができ、チームを支える立場として貴重な経験をさせていただきました。4年生の夏に卒部するまで続けることができたのは、入学時に勧誘していただき、支えてくださった先輩方のおかげです。この場を借りて感謝申し上げます。

最後になりましたが、4年間にわたりご指導くださった口腔生命福祉学科の先生方、臨床・実習でお世話になった病院の先生方、歯科衛生士の皆様、そして支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。新潟大学の卒業生としての誇りを胸に、歯科衛生士として学び続け、人々の健康と生活に貢献できるよう精進してまいります。これをもちまして、卒業の言葉といたします。



卒業生の言葉

口腔生命福祉学科4年 川野 太 朗

この度、卒業の言葉を執筆させていただく機会をいただき、心より感謝申し上げます。入学から早いもので四年の月日が流れ、別れの季節を迎えました。この四年間を振り返ると、実に彩り豊かな日々でした。一年次は五十嵐キャンパスにて教養科目を学びながら、サイクリング部やダンス部での活動に打ち込みました。趣味を通じて多様な価値観に触れた経験は、私の視野を大きく広げてくれました。二年次から始まった専門科目では、聞き慣れない用語やPBLに苦労したこともありましたが、今となってはそれも良き思い出です。特に最終学年の一年間は、臨床実習、福祉実習、特論、そして国家試験対策と、非常に多忙ながらも、これまでにない達成感を得られた毎日でした。

大学生活における最大の収穫は、自身の将来像を明確に描けたことです。入学当初は漠然としていた目標ですが、大学病院での実習が大きな転機となりました。周術期管理や口腔外科疾患など、高度な歯科医療を間近で学ぶ中で、医療の奥深さと、患者さんの「全身」や「命」に、より深く関わりたいという想いが芽生え、看護の道を志すよ

うになりました。また、病院での福祉実習では、医療ソーシャルワーカーが看護師と密に連携し、患者さんの不安や退院後の生活調整に奔走する姿を目の当たりにしました。現場の医療ソーシャルワーカーの方から伺った「看護師が日々の会話から汲み取る情報は、退院支援において不可欠な力になる」という言葉は、今も胸に残っています。これらの実習経験を通じて、私は、看護師も福祉的な視点を持つことの重要性を痛感しました。新潟大学で学んだ歯科と福祉の知見は、看護の道に進む私にとって大きな強みとなると考えています。多角的な視点から患者さんを支えられる医療人となるのが、今の私の目標です。

共に切磋琢磨した十九期生のみんな、本当にありがとうございます。とても明るいクラスで日々の学校生活を楽しく送ることができました。みんながいたからこそ、ここまで歩んでくることができたと思っています。

最後になりますが、四年間温かくご指導いただいた口腔生命福祉学科の先生方をはじめ、病院の先生方、歯科衛生士の皆様、そして支えてくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。新潟大学歯学部で学んだ誇りを胸に、学生生活で得られたつながりや経験を大切にしながら、日々精進してまいります。

